

《 志賀哲太郎研修会のご案内 》

熊本が生んだ「大甲の聖人 志賀哲太郎」について学ぼう !!

大甲の聖人

志賀哲太郎



中国や台湾には学問の神様を祀るお堂・文昌祠（日本の天満宮に相当）が各地に造られており、台湾台中市大甲区の文昌祠には、一人の日本人が合祀されています。

その人の名は、志賀哲太郎。

日清戦争後、我が国に割譲された台湾で公学校（台湾人の小学校）の教師となり、台湾の繁栄の礎を築いた多くの人材を育て、また、大甲の街の人々にも大きな影響を与えた志賀は、死後90余年を経た今日においても、台湾では「大甲の聖人」として多くの人々に敬愛されています。

志賀は、慶応元年（1865）肥後国上益城郡田原村（現上益城郡益城町田原）で鍛冶屋の長男として誕生。幼少期よりその俊英ぶりを発揮し、家族や周囲の人々の支援を得て、

木山や神水の塾に通うなど学問に励んだ後、長じて上京し、明治法律学校で法律を学びました。

24歳で帰郷した志賀は、九州日日新聞（熊本日日新聞の前身）の記者として活躍する傍ら、紫雲学会会員、国権党员として、佐々友房や古荘嘉門、安達謙蔵ら（彼らは後に皆国会議員となり、大臣や県知事等を務めた）と全国的な政治運動を展開するなど、時代の先端を走るような活動をしました。この頃、宮崎滔天とも知り合い、孫文の三民主義の影響を受けたと言われています。

しかし、当時の政界の醜悪さに疑問を持つようになった志賀は、次第に政界を離れて教育の道に志すようになり、31歳で新天地台湾に渡り、一介の代用教員として異郷の地の教育の発展に半生を捧げました。

志賀哲太郎のすばらしさは、台湾教育史に残る赫々たる教育的成果のみにあるのではなく、「大甲の聖人」と呼ばれるほどの、その人間性にあります。知れば知るほど、公平無私で慈愛に満ちたその崇高な生き方は、今を生きる私達にも深い感動をもたらし、同郷人としての誇りと勇気を与えてくれます。

平成27年、志賀の生誕150年の記念すべき年に、益城町内外の有志により、志賀哲太郎顕彰会が設立され、益城町や熊本県の支援を受けながら、啓発活動を続けています。

この機会に、多くの皆様に志賀哲太郎について学んでいただければ幸いです。

志賀哲太郎顕彰会

志賀哲太郎研修会

日時 平成30年8月5日（日） 13時30分から15時まで
場所 菊池市中央公民館 視聴覚室（菊池市隈府872番地 Tel.0968-25-1672）

（※ 菊池市生涯学習センター「キクロス」2階）

内容 講話Ⅰ 「台湾教育の礎を築いた熊本人 ～平井数馬と志賀哲太郎～」

白濱 裕氏（熊本大学非常勤講師）

講話Ⅱ 「志賀哲太郎が結ぶ台湾と熊本」

野元政司氏（国際交流ボランティア日本語教師）

参加費 無料（※ 当日、会場へ直接おいでください。）

主催 志賀哲太郎顕彰会（会長：宮本睦士 事務局：益城町木山556-20 植山方）

※ 参加者全員に志賀哲太郎関係資料を掲載した「会誌2号」を差し上げます。

【お問合せ先】研修会担当：折田 090-8399-4854